

令和3年度 東京都立日比谷高等学校

すいせん 推薦に基づく選抜

小論文

(注 意)

- 1 問題は、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50分**で、終わりは**午後0時20分**です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えをすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄ばらに記入しなさい。

2015年、国連加盟国により、持続可能でよりよい世界の実現を目指すための国際目標（SDGs）が採択された。2030年までに達成すべき17の目標と、その目標達成のための169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人として取り残さない」ことがスローガンとして掲げられている。下の問1、問2に答えなさい。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに
 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基礎をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう
 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を
 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に
 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

図 1 Sustainable Development Goals (国連広報センター)

問 1 図 1 にある、SDGs の各目標の背景には複雑な要因があり、相互に影響し合っている。また、様々な問題を同時に解決することを目指しており、ある目標を達成するために別の目標の達成を犠牲にすることはできない。仮に、「2 飢餓をゼロに」という目標に対して「農地を増やす」という解決策を考えたとする。これにより良い影響が及ぶと考えられる目標と、悪い影響が及んでしまうと考えられる目標をそれぞれ 1 つずつ示し、その理由を 120～140 字で説明しなさい。

問 2 SDGs は世界共通の目標であるので、すべての目標を達成するためには国家間の協力が不可欠である。日本は主要国として他国の目標達成に寄与することも求められ、積極的に SDGs モデルを発信・展開していく必要がある。図 2、図 3 から、現在の日本が世界をリードしてその取組を発信できる目標を示し、その目標を選んだ理由及び、具体的に日本がどのような取組を行い国際社会に貢献していくことができるのか、あなたの考えを 420～460 字で説明しなさい。

国	目標																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
カナダ	■	■	■	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
アメリカ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ブラジル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
アルゼンチン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
日本	■	■	■	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
中国	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
インドネシア	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
インド	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
イラン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
オーストラリア	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ニュージーランド	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ロシア	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
スウェーデン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ドイツ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
イギリス	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
エジプト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ケニア	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
南アフリカ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

大きな課題有り
 重要な課題有り
 継続して取り組む
 達成できている

図2 世界のSDGs達成度評価

(持続可能な開発ソリューション・ネットワーク、ベルテルスマン財団「Sustainable Development Report 2020」より作成)

年と動向	目標																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2018	■	■	■	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
動向	・	↑	↗	↑	→	↑	↗	↑	↑	・	・	・	↓	→	↗	↗	↗
2019	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
動向	↗	↗	↗	↑	→	↑	↗	↑	↑	↓	・	・	→	→	↗	↗	↗
2020	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
動向	↗	↗	↑	↑	→	↑	↗	↑	↑	↓	↑	・	→	→	↗	↑	↗

※動向は2015年時点でのパフォーマンスを元に、2030年目標達成ペースを評価したもの（詳細は以下）

- ↑：2030年までの目標達成に向けて順調な割合でスコアが増加している／目標達成値を超えている
- ↗：2030年までに目標達成するために必要なペースは下回っているが、必要なペースの50%は超えている
- ：2030年までに目標達成するために必要なペースの50%を下回っている。
- ↓：スコアが減少している。取組が悪い方向に向かっている。
- ・：データがない

図3 日本のSDGs達成度評価とその推移

(持続可能な開発ソリューション・ネットワーク、ベルテルスマン財団「Sustainable Development Report 2020」より作成)